

研究を知る × 人を知る

NIED Interview

防災科研で働く研究者をご紹介します。
研究のことから趣味にいたるまでお聞きしました。



— 気象学を選んだきっかけは？

兵庫県の北部の小さな町で育ちました。但馬地域の中央に位置し、兵庫県最高峰の山「氷ノ山」の近くです。山のふもとだったので、冬になると学校からバスでスキー教室に行くようなところでした。

中学時代、野球部に所属していて、午後の練習がなくなることを期待しながら、練習の合間に雲を見ていました。雨が降る時は結構モクモクと雲が大きくなっていくんです。それが意外に面白くて気象に関心を持ったのがこの道に進んだきっかけです。

大学入学の時には、気象学を学べる場所を選びました。学部時代に出会った小川義光先生がお書きになった「総観気象学入門」を読んで、温帯低気圧に興味を持ちました。大気の現象を数式で理解できる・説明できるということがとても面白いと思いました。

総観気象学とは、温帯低気圧や移動性高気圧、前線、台風など、数千キロメートル規模、数日から1週間程度の気象を扱う気象学の中心的

分野の一つです。また、総観気象学よりも小さな規模の気象現象である積乱雲、線状降水帯、集中豪雨など2-2,000キロメートル規模、数時間から1日程度を対象とするものはメソ気象学と言われます。

— 防災科研で研究していることを教えてください。

私の専門は、総観気象学・メソ気象学です。日本沿岸の海水温と極端気象の関係を、数値シミュレーションや統計的なデータ解析を使って研究しています。竜巻・大雨・強風といった比較的規模の小さい気象現象を対象にしています。

極端気象を引き起こす低気圧と起こさない低気圧はどう異なるのか。そもそも極端気象を引き起こす低気圧はなぜ生じるのか。極端気象を起こす低気圧に、地球温暖化等の気候変動は影響しているのかなどを明らかにしたいと思っています。

— 外部資金に積極的にチャレンジしているとお聞きしました。

科研費を中心に応募しています。私の場合は、温帯低気圧を軸として、その周辺の様々な研究テーマに取り組んでいます。自分のキャリアにもなりますし、自分の興味があることを自分のやり方で進められるところも外部資金研究の面白いところです。研究計画を書くことは、自分の研究を整理する良い機会です。その際、心がけているのは、よく分かっていないことと、明らかにすべきことを他の分野の方が読んでも分かるように明確に書くことです。自身の研究の位置づけを確認することにも役立っていると思います。

— 今後、どんな研究をしたいですか。

地球全体の気候循環のような大きな気象現象から、竜巻や大雨といった小さな気象現象までを一体的に理解するような研究がしたいです。そのためには潤沢なコンピュータ資源も必要ですが、様々な規模の気象現象に対する深い知識、それを横断的にとらえる力が重要ですので、これからも頑張っていきたいと思っています。



栃本さんって
こんな人

水・土砂防災研究部門 特別研究員

栃本 英伍 とちもと えいご

九州大学理学府地球惑星科学専攻博士課程修了。東京大学大気海洋研究所を経て、2020年4月より現職。専門は総観気象学・メソ気象学。趣味はサッカーでポジションはFW。中学時代はサッカー部がなかったので、しかたなく野球部に所属。